

Juniper SRX 日本語マニュアル

17. commit / rollback の使用方法

はじめに

Junos OS CLI の commit コマンドの詳細な利用方法について説明します

※手順内容は「SRX300」、Junos OS「15.1X49-D140」にて確認を実施しております。

2018年8月

アジェンダ

1. commit コマンドによる設定の適用
2. check オプションの使用方法
3. confirmed オプションの使用方法
4. at オプションの使用方法
5. rollback コマンドによる設定戻し

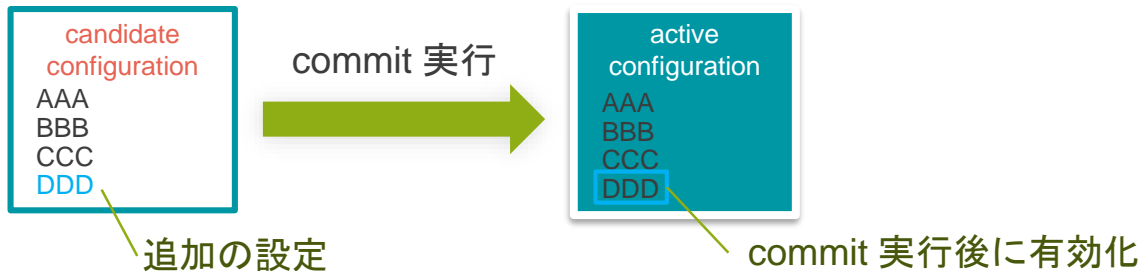
1. commit コマンドによる設定の適用

JUNOS の CLI において、configuration モードで設定した内容を機器に適用する際に commit コマンドを実行する必要があります。

```
[edit]
user@srx# commit
commit complete
```

commit を実行したとき、それまで編集中的の設定候補の内容 (candidate configuration) が動作中の設定 (active configuration) として適用されます。

※ commit をしない場合、追加した設定内容は有効にならない。



2. check オプションの使用方法

設定の適用前に、構文の正常性を含め編集内容に問題が無いことを確かめるために check オプションがあります。

通常の commit コマンドに代わって、commit check コマンドを実行した場合、動作設定 (active configuration) への設定の適用はされず、設定内容のみのチェックが行われます。

```
[edit]
user@srx# commit check
configuration check succeeds
```

設定内容に問題が確認された場合は、問題の設定箇所と問題の内容が出力表示されます。

```
[edit]
user@srx# commit check
[edit security policies from-zone trust to-zone untrust]
  'policy Policy-1'
    Missing mandatory statement: 'match'
error: configuration check-out failed: (missing mandatory statements)
```

3. confirmed オプションの使用方法

commit で適用した設定内容を一定時間経過後に commit 前の設定状態に戻すことを可能にする confirmed オプションがあります。

設定動作を一時的に確認する場合や、動作状況を確認しながら設定の調整を行う作業などにて活用可能なオプションになります。

※ 元に戻す時間の設定はデフォルト 10分、1分～65535分の範囲にて指定が可能です。

```
[edit]
user@srx# commit confirmed 1
commit confirmed will be automatically rolled back in 1 minutes unless confirmed
commit complete

# commit confirmed will be rolled back in 1 minute
```

指定の時間内に再度 commit を実行した場合、設定を戻す自動の rollback 動作は解除されます。

4. at オプションの使用方法

commit による設定の適用を特定の日時に指定して行う場合、at オプションを使用することによって調整が可能になります。

at オプションを利用することによって、設定の check のみが実行され、設定に問題が無ければ指定の日時に commit の実行が自動的に処理されるように機器にて予約されます。

※ オプション実行後、configuration モードから operational モードに自動的に移動します。

```
[edit]
user@srx# commit at 19:00    ※ 19時に設定の適用を実行するコマンド
configuration check succeeds
commit at will be executed at 2017-05-19 19:00:00 JST
The configuration has been changed but not committed
Exiting configuration mode
```

時間や日時以外に、commit at reboot と指定することによって、機器再起動時に commit を実行するように調整することも可能になります。

5. rollback コマンドによる設定戻し

以前の設定状態に設定を戻す場合、rollback コマンドを使用します。
Junos OS では過去に適用した設定内容を 50世代まで保存することができ、
rollback コマンドにて指定した過去の設定状態を呼び戻すことが可能となります。

```
[edit]
user@srx# rollback ?    ※過去設定の情報を呼び出すコマンド
Possible completions:
  <[Enter]>             Execute this command
  0                     2017-05-19 19:00:59 JST by user via cli commit at
  1                     2017-05-19 18:28:06 JST by root via other
  2                     2017-05-19 18:26:10 JST by user via cli commit confirmed, rollback in 1mins
  3                     2017-05-19 16:05:57 JST by user via cli
  4                     2017-05-19 16:02:32 JST by user via cli
... (以下省略)
```


5. rollback コマンドによる設定戻し

コマンド `rollback + 数字` で特定の過去の設定を読み込みます。
設定内容のロード後、`commit` を実行することによって、呼び戻した過去の設定を機器に改めて適用することができます。

```
[edit]
user@srx# rollback 5    ※過去の 5 番目の設定情報を読み出すコマンド
load complete

[edit]
user@srx# commit      ※ロードした設定の適用コマンド
commit complete
```

また、`rollback 0` のコマンドを使用することによって、最後に適用した設定内容をロードすることが可能となります。
変更中の設定内容を破棄する場合に活用するコマンドになります。

※設定変更の無い状態に戻るため、`rollback 0` 実行後の `commit` は不要になります。

```
[edit]
user@srx# rollback 0    ※設定変更内容を破棄し、最後に適用した設定状態に戻すコマンド
load complete
```